

公務災害防止事業の推進

▶ 「安全管理セミナーを実施して」 ◀

徳島市消防団

1. はじめに

徳島市は、徳島県の東部に位置し、四国一の大河・吉野川とその支流がつくり育てた三角州に発達した県都です。市内を縦横に流れる大小の川と徳島市を代表し優美な姿を誇る眉山の緑は、住む人に安らぎを与え、訪れる人を癒しています。

まちの基礎は、天正年間に蜂須賀家政が阿波に入国し、城郭を築いたのが始まりで、蜂須賀十四代の治世のもと、阿波の政治・経済の中心として栄えました。気候は温暖であり、阿波おどり、人形浄瑠璃、藍染、すだちなど、徳島の風土と歴史が育んだ個性的な文化を有しています。

現在では、神戸鳴門自動車道と四国縦貫・横断道の結節点として、近代産業の育成や、高速情報化時代に対応しながらも豊かな自然を残す、面積191.25平方キロメートル、総人口256,315人(平成27年4月現在)が暮らすまちです。

2. 徳島市消防団の概要

徳島市消防団は、1本部、19分団、5班、674名の団員で構成されており、市民の安全安心のため地域防災力強化のため、各種消防団活動に努めています。

本市では、今後30年以内に南海トラフを震源域とするM8以上の地震が発生する確率が70%以上と、巨大地震と津波による災害が危惧されているところです。平成16年以降、水害に対する消防団の装備充実強化を図るとともに、現在

では、消防団員の安全確保のため安全装備品の充実強化を図っています。

3. 消防団員安全管理セミナー開催の経緯

平成27年4月1日現在、条例定数674名に対し実団員数は629名(充足率93.3%)、平均年齢は約46歳、平均勤続年数約12年、入団5年以内の団員が27%を占める状況にあり、ベテラン団員が退職し、若年化が進む中、現場の知識、技術及び経験の伝承が課題となっていますが、同時に災害現場における安全管理を徹底することも最重要課題となってきています。

近年、火災等の災害発生件数は減少傾向となり、現場経験の少ない消防団員が増加しています。危険が潜在する災害現場において、積極的な安全管理対策を実施するためにも、今一度、原点に立ち返り安全管理を学び直すこととしました。

安全管理の重要性を理解し、団幹部、団員が組織を挙げて実践することにより、重大事故を未然に防ぎ、より多くの人命を救助することを



目的とし、安全管理セミナーを実施することとしました。

4. 消防団員安全管理セミナーの様子



平成27年8月2日(日)徳島市JA会館において、消防基金S-KYT指導員の福井先生をお招きして安全管理セミナーを開催し、団長以下68名が参加しました。

福井先生には、公務災害の発生状況や、事故事例、幹部としての心構え、組織としての対応等、事例を踏まえ分かりやすくご講義いただきました。また、東日本大震災での教訓と安全確保対策についてもご説明いただきました。

本市においても、南海沖地震時の活動は課題であり、団幹部をはじめ分団員も危機感をもっていた様子で、熱心に聴講する姿が見えました。



講義終了後のアンケートでは、安全管理の重要性を再認識する声、日常からの備え、災害時にはまず自己の安全と家族の安全を確保する等の声があり、団幹部からは指揮者としての心構えを見直す声など実りある安全管理セミナーであったことが伺えました。

5. 今後の取組

継続して安全管理研修を実施するとともに、「公務災害ゼロ」を目指し、今後はより実践的に「潜在的な危険」を予知し回避できる能力を身に付けるべく、S-KYT研修の実施を計画していきたいと考えております。

最後にこのような機会を与えていただきました消防団員等公務災害補償等共済基金の皆様にご感謝申し上げます。

